

活動報告書

報告者氏名：水野吉丈 佐藤育子 所属：東京都立江戸川特別支援学校 記録日：平成26年 2月14日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年 高等部 1 年
- ・ 障害名 難治性てんかん 肢体不自由 知的障害
- ・ 障害と困難の内容

難病のためてんかん発作がある。医療的ケアはなく、現在は、体調は安定しているが訪問学級の生徒である。昨年と一昨年は、生活リズムが昼夜逆転していて、訪問の授業を受けることができなかった。今年度4月下旬より、お昼ぐらいに起きられるようになり、午後の授業を週2回継続して受けることができている。母親の声は分かっており、母親のことばがけで笑顔になることがある。身体を揺らしてもらうことを好み、抱っこされての揺れで笑顔になる。快・不快を表情で伝えることができる。さまざまな刺激を受けそれに応じた反応を引き出せる方法の一つとして iPad を選択して取り組むことにした。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい

iPad に触れると、音が出るということがわかるようになると良いと考えた。本児は、音楽が好きで、好きな楽器の音や好きな曲で明るい表情になる。手の動きは、小さめのマラカスを短時間握ることはできるが、バチを持って自分で木琴等を鳴らすことはできない。→iPad は、ほんの少し触れるだけで音が出る。→ほんの少し触れるだけで音を出せることが理解できれば、自分で触れて好きな音を楽しむことができる。

○実施期間 平成 25 年 9 月 19 日～11 月 28 日

○実施者 佐藤育子

○実施者と対象児の関係 訪問学級生徒と担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

本児は、高等部に入学する前の2年間は、生活リズムが昼夜逆転してしまいほとんど授業を受けることができなかった。高等部に入学し4月後半から午前11時ぐらいに起きられるようになり、午後の授業を継続して受けられるようになった。2年間のブランクがあったため、授業に向かう集中力が乏しく、身体に触れられることへの過敏もあった。今年度は、午後の授業は継続して受けることができたので、少しずつだが、授業に向かう集中力がついてきている段階である。

・活動の具体的内容

初回にアプリの「Pocketpond」と「iLovefireworks」、2回目以降は「タッチカード」も使用した。

「Pocketpond」は、五回目の指導で音がすると笑顔になることがあり、それ以降も水の音を集中して聞くことができるようになった。

「タッチカード」では、木琴やウクレレの音を聞くと明るい顔になった。またりんごの中の虫の声を好む様子が見られた。

・対象児（群）の事後の変化

集中して画面を見る時間が増えてきた。

気持ちを集中して音を聞いていられるようになった。

触れると音がするということは、指導に取り組んでいる期間では理解が難しかった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

iPadのアプリは、水の音や楽器の音等が実際の音にかなり近いものであり、本児は音をよく聞き取り、笑顔等の表出がふえた。

画面も顔の近くに持っていきやすかったので、本児が見る時間が増え、見る力をつけることができた。

・エビデンス（具体的数値など）

別紙記録「iPad使用記録江戸川訪問.doc」参照

・その他エピソード（画像などを含めて）

本児はあおむしが笑う声や、水の音、楽器の音等好きな音で明るい表情になったり、笑顔になった。

→この取り組みを通して、本児が音をよく聞いていて、好んでる音色の傾向があり、好きな音を聞き分けているのではないかと予測された。